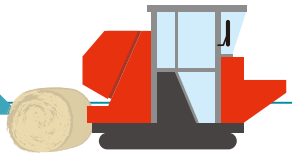
2018 / December
12
担い手通信
JAバンクは地域の担い手を応援します

今月の話題

大麦わらサイレージ
肉牛粗飼料に稲と作業分散
富山県が新体系

富山県農林水産総合技術センター畜産研究所は、大麦わらをロールベールサイレージに調製し、肉牛の粗飼料に使う体系を考案しました。大麦の収穫時に汎用（はんよう）コンバインでわらを適度な長さに切断して排出。小型のロールベーラーで回収し発酵させると、長期保存が可能な良質のサイレージができます。作業は大麦を収穫する5、6月のため、秋に作る稲わらサイレージと組み合わせれば、飼料作りの作業分散につながると期待が高まります。



県内は水田転作として大麦「ファイバースノウ」の栽培が盛んですが、わらは大部分がすき込まれ、未利用資源となっています。飼料として販売できれば、水田の面積当たりの収益が高められます。

最初の作業は、わらの細断です。汎用コンバインで、排出するわらのカット長を2、3段階で調節する機能を使い、わらの長さが全体の3分の1（約26センチ）になるよう設定。これより細かくすると、回収作業が難しくなります。

回収には、小型で扱いやすい自走式ロールベーラーを使います。試験ではタカキタの「SR1020」を使って回収しながら走行すると、約10分で1ロールが完成します。全体の8割ほどの細断わらを回収し、ロス率が低くなりました。

品質面でも問題はありませんでした。市販の乳酸菌を加えて発酵させると、酸や窒素の割合から計算するサイレージの評価基準、Vスコアは半年後に100、1年後に89と高い数値で、ずっと「良」でした。栄養素では、ビタミン含有量は稲わらと同等以下で、ビタミンを抜く必要がある肥育中期の牛にも使えることが分かりました。

同研究所は「粗飼料を自作する畜産農家が増えているが、稲わらサイレージだけで賄うと秋に作業が集中する。春にも大麦でサイレージを作れば作業分散ができ、増頭などの規模拡大もできる」と説明します。

今が旬 この言葉
農地集積バンク

農地中間管理機構（農地集積バンク）は、政府が進める農政改革の柱の一つとして創設された組織です。2014年3月に関連法が施行されました。同機構は耕作継続が難しい農家から農地を借りて一定にまとめた上で、担い手に貸し出す役割を担っています。農水省は11月16日、同機構の見直しの方針を取りまとめました。農地集積・集約化に向けた地域での話し合いを活性化することを柱とし、農地利用集積円滑化事業や地域での活動組織を事実上取り込む形で軌道修正しました。

営農技術 pick up

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介します。

シマサルナシで全国初の産地化を目指す

大玉で食味良好の「みえ紀南蔓1号」

キウイフルーツの近縁種として知られる「シマサルナシ」。温暖な地域に生息しており、県下では熊野灘沿岸部を中心に古くから自生しています。東紀州地域ではサルをはじめとする獣害が深刻で、その対策として紀南果樹研究室では獣害に強い果樹の研究を行ってきました。そこで、シマサルナシに着目し、地帯別に同種を集め、特性や栽培性などを調査し、その中でも果実が大きく糖度の高い「みえ紀南蔓1号」を選抜しました。

「みえ紀南蔓1号」の果実は縦径約40ミリ、横径約33ミリ、果実重は約30グラム。追熟により糖度は15度にまで上がります。一般的なシマサルナシよりも大玉で糖度も高くなります。果実の表面の毛はほとんどなく、果肉は濃い緑色をしており生食だけでなく加工用にも適しています。柵栽培で約1・6トン／10アールの収量を見込め、今後の県内特産物候補として期待が高まります。果実は追熟が必要で、固い状態で収穫することから野生動物による食害を回避することができます。

三重県南部が自生地の北限とされる「みえ紀南蔓1号」は、東紀州をはじめとした温暖な地域での栽培に向きます。11月下旬より出荷を行うことができ、年末商材として活用できます。また、今年度より関東方面の量販店にて販売を予定しており、産地化に向けた取り組みが進められています。

「みえ紀南蔓1号」の果実

お問い合わせ先
三重県農業研究所 紀南果樹研究室 ☎ 05979-2-0008
中央農業改良普及センター ☎ 0598-42-6323

県内NEWS

（日本農業新聞より）

■ JAみえきた

JGAP取得　後押し

JAみえきたが立ち上げた「JAみえきたGAP推進チーム」が支援する、四日市市県（あがた）地区の担い手農家、高木農園の高木基博さんがチーム支援農家で初めて、日本版の農業生産工程管理（GAP）第三者認証「JGAP」を取得した。認証取得は8月下旬。高木さんに続き、同チームが支援した2人目の取得も目前。農家のJGAP取得を順調に後押ししている。同JA美濃部孝司営農指導課長は「GAP認証は昨今、安全・安心な農産物を作っている証明として大変注目が集まっており、今後もそのニーズは高まってくる。気軽にJAへ相談してほしい」と呼び掛ける。

（2018/11/21 ワイド2東海）

■ JA津安芸

自己改革実践パネルでPR

JA津安芸は、取り組んでいる自己改革の内容をPRするための資材として「自己改革実践中!」パネルを作成した。11月上旬に開いたJAまつりで初めて展示。組合員や地域住民に対し「組合員・地域になくてはならないJA」をアピールした。JAではこのパネルをベースにしたパンフレットも作成。11月中旬から12月上旬にかけて全27地区で開く秋の座談会で活用し、自己改革の取り組みに対する理解促進に努める。

（2018/11/21 ワイド1東海）

■ JA三重中央

特産「一志」規格など確認

津市一志町波瀬地区にあるJA三重中央じねんじょ集荷場で11月上旬、特産「一志じねんじょ」の目ぞろえ会が開かれ、一志じねんじょ部会の部会員14人が参加した。部会員3人がジネンジョを13本持ち寄り、長さ、重量、形などの出荷規格や要領を確認した。12月9日には、JA営農センター一志で「じねんじょまつり」が開かれ、生産者による対面販売やおとし汁の振る舞いがある。

（2018/11/18 エリア東海）

明日の農業を担うみなさまへ
JAバンクは地域農業を応援します!

◆トラクターなどの農業用機械の購入資金
◆栽培用ハウス・畜舎など農業用施設の建設資金
◆その他農業経営に必要な資金

農業を営むすべての方に
農業経営資金

実質保証料 0円

対象期間／平成30年4月2日～平成31年3月29日
農業者の皆様のご負担金利を5年間軽減いたします。

JAバンク利子補給制度（3年間）と
当JA金利引き下げ（2年間）措置の対象となります。
利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～
《お借入金利》変動金利 年1% － 《JAバンク利子補給・金利引き下げ》年0.8% ＝ 実質 年0.2% 5年間

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/
平成30年11月現在

※JAバンク利子補給・当JA金利引き下げ後のご負担金利は0.2%を下回らないように調整されます。
※イメージは実際とは異なる場合がございます。詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください。
※JAバンク保証料助成により、実質保証料が0円となります。

JAバンク 三重県下JA／JA三重信連